

平成26年度 スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

都道府県名	富山県
学校名	高岡市立二塚小学校
学校のホームページアドレス	http://www.city-takaoka.jp/futataka/index.html

1 取組テーマ

心身ともに健康な児童の育成を目指した食に関する指導の充実

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置年及び人数	平成19年(兼務)	1人
配置されていない場合の対応状況		

3 推進委員会の構成

関根 道和	富山大学大学院医学薬学研究部 教授
名村 信雄	富山県教育委員会スポーツ・保健課 食育安全班 班長
原野 恵子	富山県教育委員会スポーツ・保健課 食育安全班 指導主事
橘 正規	高岡市教育委員会体育保健課長
小川 京子	高岡市教育委員会学校給食担当主幹
山崎 栄三	高岡市立野村小学校 校長
藤田 高豊	高岡市立下関小学校 校長
富田 利通	高岡市立福岡小学校 校長
林 由香	高岡市立石堤小学校 校長
亀田 倫子	高岡市立二塚小学校 校長
本田 智	高岡市立二塚小学校 教頭
大谷 行和	高岡市立二塚小学校 教務
川岸 由美	高岡市立二塚小学校 研究主任
堀田 洋子	高岡市立二塚小学校 給食主任
金田 順子	高岡市立二塚小学校 養護教諭
亀ヶ谷 昭子	高岡市立二塚小学校 栄養教諭
淵澤 竜也	高岡市立二塚小学校医(内科)
矢野 宏樹	高岡市立二塚小学校医(眼科)
焼田 志図	高岡市立二塚小学校医(歯科)
堀 正人	高岡市立二塚小学校医(耳鼻科)
松原 美子	高岡市立二塚小学校薬剤師
松崎 義郎	高岡市立二塚小学校 PTA 会長
島 利弘	JA 高岡二塚支店長
舘 賢将	JA 高岡営農センター営農課 係長 営農指導員
林 美智子	生産者代表(食生活改善推進員)
岡本 恵美	生産者代表(食生活改善推進員)
久保 香子	高岡市立野村小学校 栄養教諭
小間 陽子	高岡市立福岡小学校 栄養教諭

4 連携機関及び連携内容

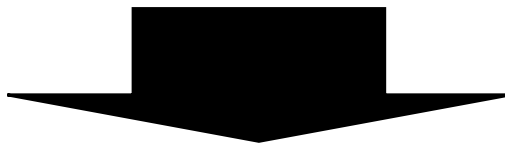
連携機関名	連携内容
富山大学大学院医学薬学研究部 関根研究室	評価・検証方法、調査・分析 児童・保護者対象講演会、保護者・教職員への指導

5 実践内容

事業目標
・小児生活習慣病予防検診を4・5・6学年児童に実施し、その結果「異常なし」とされる児童の割合を60%以上とする。 (平成25年度実施校4年生「異常なし」結果・・・実施校53.8%、高岡市68.8%)

評価指標
○ 中間指標 1 肥満度(身長、体重、血圧、血清コレステロール) 2 生活実態調査 ①ライフスタイル (朝食摂取状況、就寝・起床時刻、余暇の過ごし方 等) ②食育に関する認識 (食文化・歴史、郷土への愛着、地産地消の認識、食事の栄養のバランス、家庭による食への関心、生産者等働く人への関心・感謝の気持ち 等) ○ 最終指標 ・小児生活習慣病予防検診における「異常なし」児童の割合が60.0%以上

評価方法
・小児生活習慣病検査を4・5・6年で2回(6・12月)実施し、その結果と生活実態調査の結果との関連を考察して取組の成果を分析、検証する。 ・生活実態調査を実施し、周辺4校や児童の健康状態サーベイランス事業の調査結果と比較し、取組の成果を検証する。 ・本校と規模や立地環境、家庭や地域と連携した食育イベントの回数が異なる周辺4校の実態と比較検証し、次年度以降の本校の取組の改善に役立てる。



評価指標を向上させるための仮説(道筋)
各教科、各領域の指導内容と食との関連を明確にした指導計画及び評価計画を作成し、系統的・体系的な指導を計画的に行う。 また、家庭や地域との連携を推進し、望ましい食生活の形成を図る。 以上の取組によって、全学年で実施する生活実態調査(ライフスタイル、食に関する認識)の結果の改善及び4・5・6年生で実施する小児生活習慣病検査の結果が数値目標を達成することを目指す。



実践内容

「心身ともに健康な児童の育成」を目標に掲げ、明確な評価指標の達成を目指して「食に関する指導の充実に取り組んだ。目標達成への道筋と取組内容を具体化して全教職員で共通理解を図り、ベクトルの総和を最大にして実践を行った。

実際の指導では、栄養教諭が中心となり、食に関する指導の全体計画の作成及び担任との連携、家族や地域の方々への啓発内容の調整を図り進めた。

このように、児童にとってよりよい指導が展開できるように改善を重ねながら取り組み、大きな成果を得ることができた。

以下に、その取組内容の一端を写真や資料を基に紹介する。

【学校教育活動全体を通じた食に関する指導の充実】

1 各教科・領域における食に関する指導の充実

- ① 生活科 「イチゴのなえうえ(1年生)」「サツマイモパーティー(1年生)」「ぐんぐんそだて わたしのやさい(2年生)」
- ② 総合的な学習の時間「米米プロジェクト イン 二塚(5年生)」
- ③ 国語科「ミラクルミルク(3年生)」
- ④ 社会科「地図を広げよう(4年生)」
- ⑤ 家庭科「ジャガイモを使った朝食メニューを考えよう(6年生)」



⑥学級活動 等



⑦ 児童会・委員会活動 等

- ・ バースデーランチ
- ・ 「元気もりもり集会」(学校保健委員会)
- ・ 「高岡食19井(元気ビビンバ井)」食19井専用の食器(漆器)



2 JA高岡と連携した生産体験活動

- ① 学校田での米づくり(5年生)
- ② 学校農園での野菜作り(全学年)
- ③ 学校給食とやまの日



【家庭や地域と連携した望ましい食習慣の形成】

1 学校行事として

- ① 食育講演会
- ② 給食試食会



2 PTA活動として

- ① 親子ふれあい活動（1年～6年）
 - ・親子でおやつ作り（1年生）
 - ・うどん作り体験（3年生）
 - ・「ますのすし作り体験」（5年生）
 - ・親子料理教室（2年生）
 - ・乳絞り体験・親子料理教室（4年生）
 - ・地引き網と魚さばき体験（6年生）



3 家庭・地域への啓発として

- ① 給食だより・食育通信、ホームページ
- ② 食育啓発教材の開発・作成・配布



【検証評価】

1 推進委員会の開催

- ① 3回開催…（5月、12月、2月）
- ② 検討内容
 - ・最終指標の達成に向けての活動内容
 - ・成果や今後の課題

2 生活実態調査の実施【富山大学作成・分析】

- ① 全学年で2回実施…（6月、12月）
 - ・指定校1校と協力校4校、計5校

3 小児生活習慣病検査の実施【北陸予防医学協会】

- ① 4・5・6年で2回実施…（6月、12月）

第3回推進委員会の報道



6 現在までの成果及びこれから期待される成果

1 「生活実態調査」の結果より（富山大学大学院 関根研究室 評価検証）

【成果1】

食育事業を通して、児童だけではなく保護者の食育に関する意識が向上し、実際の食行動にもよい影響が見られ、食育事業の成果が認められた。健康指標の肥満率については、重点的に取り組んだ実施中心校と協力校1校には改善が見られた。引き続き、食育を推進する運動を各学校、個々の家庭において継続し、長期的な効果について再評価を行う必要があると考えられる。

【意識・行動の指標・・・目標 改善】

○意識の変化

- ・「食育を知っている」（5校全体） 25.8% → 32.7%（↑）
- ・「食育に関心がある」（5校全体） 41.7% → 45.7%（↑）

○行動の変化

- ・「野菜を食べることを心がけている」（5校全体） 81.4% → 82.0%（↑）
- ・「子供には好き嫌いがない」（5校全体） 17.5% → 19.0%（↑）
- ・「栄養のバランス（主食+主菜+副菜+汁物）を考えてメニューを考えたり選んだりしている」（5校全体） 81.3% → 83.2%（↑）

【健康指標（肥満率）・・・目標 改善】

○実施中心校

- ・取組前 5.3% 取組後 4.1%（↓ …マイナスは改善）

【成果2】

食に関する認識の向上や食習慣の改善によって、児童の「小児生活習慣病検査」の「異常なし」結果に大きな改善を図ることができた。

【最終指標（小児生活習慣病検査）・・・目標値 60.0%】

○実施中心校

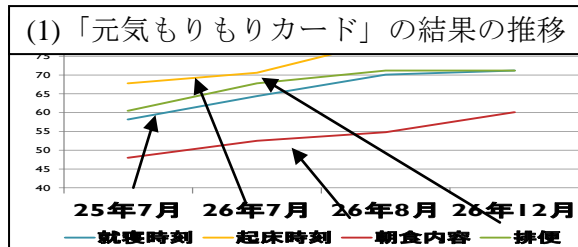
取組前 (H25 10) 53.8% → 取組中 (H26 6) 66.7% (↑) → 取組後 (H26 11) 70.8% (↑)

2 「元気モリモリカード（学校のカード）」の結果より

〔全学年で、年4回（7月、9月、12月、2月）実施〕

○望ましい生活習慣の確立を目指すものである。

○右のように、「就寝時刻」「起床時刻」「朝食内容」「排便状況」の全ての項目に関して改善が見られた。

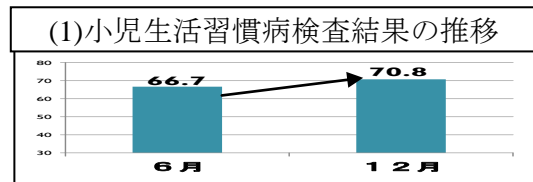


3 「生活習慣病予防検査（北陸予防医学協会）」結果より

〔4・5・6年生で、年2回（6月、12月）実施〕

○6月の検査時点で最終指標の目標値「異常なし 60%」が達成された。

○12月には更に4ポイントの上昇が見られた。



7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- ・毎月の食育だよりで、保護者へ取組状況を発信している。
- ・学校のホームページは毎日更新しており、食育の取組についても随時情報発信している。
- ・新聞やテレビ等のマスコミに何度も取り上げられ、広く県民への情報発信が行われている。

8 今後の課題

実施校は、昨年度「栄養教諭を中核とした食育推進事業」に取り組み、本年度も継続して本事業を推進している。その成果として、小児生活習慣病検査の結果において「異常なし」の割合の最終指標の目標値の60.0%を超え、70.8%を達成した。また、4年生に限れば、75.0%であった。これは、児童や保護者の食への関心の高まりと食習慣の改善に起因する。今後も取組を継続して望ましい食習慣の定着を図り、なお一層心身ともに健康な児童の育成を目指す。